

第三百二十一話 二つの祖国の狭間で！

令和6年2月19日、バイデン大統領は、日本（系）人の強制収容に関して改めて謝罪した。レーガン大統領が1948年に謝罪。戦争状態にある国家における所謂敵国人の取り扱いには、その国家の体質・民族性等が反映されているのではないだろうか？欧米諸国における日本人や日系人の取り扱いと日本における欧米人や二世の扱いがかなり異なっている。

1 在米邦人の苦難

(1) 強制収容等

米大統領FDRは、日米関係が険悪化するにつれ日系人に対して危機感を抱き、1941年11月には、米国内在住日系人や日本人の監視リストを完成させた。日本軍の米本土への攻撃（第86話知られざる米本土空襲参照）に脅威を覚え、必要があれば外国人を強制的に隔離できるとする「大統領令9066号」を承認した。（1942/2/19）尚、日本人や日系人が敵性行為を行ったとの事例は見つかっていない。対象は全ての敵性外国人とされたが、米国籍を持つ日本人を含む日系、日本人12万人が強制立ち退きと強制収容された。行政命令による強制収容は秋まで続き、米国7州の10か所の収容所に収容された。収容所生活は過酷なものであったことは言うまでもない。

一方、真珠湾奇襲直後から指導的立場にいた日系人約1,300人を拘束した。

(2) 日系人部隊・日系人情報部

米国に対する愛国心や忠誠心ある日系人による日系人部隊が編成された。第二次世界大戦中、約33,000人の日系二世がアメリカ軍に志願従軍した。実戦部隊として、当初はハワイ緊急大隊そして100歩兵大隊最終的には陸軍第442連隊となり、一部約6000人は、アメリカ陸軍情報部の3部隊に配属された。



442連隊は、全滅寸前だったテキサス大隊の救出、難攻不落といわれたゴシック・ラインのドイツ軍要塞攻略など、目覚ましい戦果を上げ、アメリカ史上最強の陸軍部隊と賞賛されることに米軍史上最強の陸軍部隊と称された。

一方、日本の言葉や文化に関する知識を有する陸軍情報部の日系人兵士は、早期終戦に導く大役を果たしたといわれている。

日系人部隊や情報部員兵士の心意をどう理解すべきなのだろう。

(3) 米国の謝罪

強制収容は人種差別が明々白々だ。米国バイデン大統領は、大統領令署名から82年の2024年2月19日、声明を発表した。「恥ずべきことだ。家族を離れ離れにし、尊厳を奪った」と国家の過ちを改めて謝罪した。やっとなんて言うべきだ。

2 在日欧米人等

日米英蘭戦開始時に、在日民間敵国人342人（主として成年男子）が日本各地の収容所に抑留されるとされる。抑留所は、教会、修道院、ミッションスクールなどが指定された。抑留者数は資料により差はあるが、1000名強である。

二世（1941年時点で、二世は約5万人）の殆どは、敵国民間人として抑留されなかった。

抑留の態様は、様々で、時期によっても異なるとされるが、比較的自由であり、監視の対象とはなったものの日本の一般市民と同じように扱われた。

3 若干の所感

二つの祖国を有する者の忠誠心や愛国心は何れにあるか？同化が進めば当然国家に対する愛国心が優ると考えられるが、浅い場合でも結構強いのか。人種差別を払拭するには時間がかかる。